



兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2016 **1**



12月8日(火)・9日(水)、兵庫県農業共済会館において、中小企業庁の補助による日本生協連・兵庫県生協連共催「大規模災害対策・事業継続（BCP）マニュアル策定研修会」を開催。平時の備えや非常時の優先事業の継続方針、危機管理意識を深めることを目的に、兵協連19会員生協と11団体など64名が参加しました。（関連記事P.14）



兵庫県生活協同組合連合会 会長理事

本田 英一

(ほんだ・えいいち)

「対話」と「試行錯誤」

新年あけましておめでとうございます。会員の皆さまにおかれましては、よき新春をお迎えのことと、お喜び申し上げます。

さて、私は昨年12月、65才になりました。いわゆる「高齢者」の仲間入りをしたわけで、シルバー料金で散髪ができ、王子動物園は無料で入れ、県立美術館も半額で見られる、まったくありがたい事づくめでありますが、あまりうれしい気持ちにはなりません。「高齢者」という言葉は、いかにも統計上の区分、保護の対象といった感じで良くありません。むしろ「老人」の方が尊敬ある呼び方ではないかと思えます。私も、「高齢者」の群れの一人ではなく、人生の成熟期を迎えた「老人」になりたいと思います。

さて、新しい年2016年は、団塊世代が後期高齢者になる、いわゆる「2025年問題」まで10年をきったことを知らせる半鐘を打ち鳴らす年であります。私が仲間入りした「前期高齢者」より「後期高齢者」の方が、認知症の発症率や身体的介助度が高くなるのは間違いないと思います。そういう中でも、人が「尊敬」を持って終末を迎えられるような社会でありたいと思います。そのためには、いかにすればよいか。そこで考えたのが、

タイトルの言葉であります。人が人らしく生きていくには、人と人がつながりあわなければなりません。「おひとりさま」世帯が増える中、「俺は家族以外の世話になる気はない」そんなことを言っておられる状況ではないのです。血縁や金縁を超えて人とつながるには「対話」が必要です。しかし、「対話」の場をどうやって作るのか、「対話」を通じて人と人が共生する関係を作るにはどうすればいいのか、簡単なことではありません。助け合いや協同を信条としてきた我々生協人も、必ずしも多くの「引出」を持っているとは言えません。そのための様々な試み、明るい言い方をすれば「挑戦」でしょうが、しかし、この言葉では現実の厳しさをうまく捉えきれません。むしろ、「試行錯誤」の方が覚悟を決めてやっていくという感じが出てピッタリする、と思っています。

この2016年、個人としては「老人」と呼ばれ、組織としては「生協は頼りになるね」と言ってもらえる、そういう存在になることを目指し、「対話」と「試行錯誤」を掲げて「もがいて」いきたいと思っています。どうぞよろしく願います。

CONTENTS

2. 想点
3. 会員生協・今年の抱負
13. 会員生協・今年の抱負／「ひょうご消費者セミナー2015」のご案内
14. 「大規模災害対策・事業継続（BCP）マニュアル策定研修会」報告
15. 第4回理事会 報告／兵庫 JCC「虹の仲間づくりセミナー」報告
16. 単協通信 宝塚医療生活協同組合／近畿労働兵庫兵庫地区統括本部
17. 兵協連「生活問題研究会」研修報告／第14回税務・経理講習会のご案内／「フェニックス共済」のお知らせ
18. 協同組合のかけ橋
19. 兵庫県のページ／ヨッシーの窓
20. ひょうご消費者ネット シンポジウムのご案内／県連日誌／編集後記



2016年 今年の抱負



次の世代につなぐために



生活協同組合コープこうべ
常務理事

山添 令子

あけましておめでとうございます。

現在コープこうべは、基本方針として「共に生きる、未来につなぐ」を掲げ、くらしや地域さらには社会的課題を解決していこうという取り組みを進めています。これは、少子高齢化、格差、子どもの貧困等の社会的課題の拡大、そしてセーフティネットとなるべき社会保障制度や地域社会の疲弊が明らかになる中で、一人ひとりを個として尊重することを前提に、助け合い力を合わせる、協同の理念と手法が、今こそ必要であるという問題意識からです。その真ん中に、組合員のくらしがあり地域との関わりがあることは、言うまでもありません。

昨年1年間、この視点で、店舗での総合相談、移動店舗や個人宅配・夕食宅配による買い物サポート、居場所・つどい場づくりの活動等を進めました。また、活動と事業の主体である総代とのコミュニケーション手法についても改革をしてきましたが、まだまだ緒についたばかりです。2016年度は、組合員の声にしっかり耳を傾け、これらの取り組みを更に前に進めたいと考えています。

次代を担う人材育成とネットワーク作りのため、「虹の仲間づくりセミナー」もはじまっています。協同の理念と手法を広く社会に広げていくためにも、県下の生協の皆さんとの連携が必要です。今年もどうぞよろしく願います。

「もとに生きる」を信条に



佐曽利消費生活協同組合
理事長

中村 豊

新年 明けましておめでとうございます。

私たちは、ともすれば自分一人の力で暮らせていると思いがちです。勿論、収入面でははつきり区別できますが、居住区域や生産活動の場面では、陰に陽に「お互い様」協同が作用していると思います。昨年、自主防災が叫ばれ、特に高齢者世帯への対応など住民自らの意識が高揚しています。

わが生協にも果たすべき役割を考え、緊急時に限らず、存在を活用できるような体制が必要と思うところです。特に、歴史ある村落共同体にあって、離農とか空き家の発生が現実味を帯びた今日、村づくりを一層声高に、そして有効な組織となるよう、組合員の積極的な発想を期待するものです。

水道、電気が当然のように機能していれば、その便利さや大切さに気付かないが、いざ止まれば大騒ぎ。生活が成り立たない。生協を大切に便利な存在とされている組合員がいる限り、その有意義性を高め、確固とした暮らしの下支え組織として存続させたいと思います。

30周年を迎えます



生活クラブ生活協同組合
都市生活
専務理事

角田 学

新年あけましておめでとうございます。

当生協は1986年に設立され、今年で創立30周年を迎えます。オルタナティブな生協として、食の安心、環境の安心、暮らしの安心を他人まかせにせず、協同の力で創り出すことに取り組んできました。この30年間で、食や環境の安心については、社会全体の関心や求める水準が上がり、ごく当たり前のことになった事例もある一方で、遺伝子組み換え技術や国内生産・自給力の問題のように、新たに生じたり、より複雑さを増す問題も多くあります。食や環境の安心は、依然として重要な取り組みべきテーマとなっております。

さらに、30年前と比べて、より重要となったのは、少子化、超高齢化がすすむ社会の中で、孤立しがちな高齢者や子育て中の若い世代が安心して暮らせる地域づくりの課題です。

私たちは、地域福祉の取り組みを阪神淡路大震災後の被災者支援・地域復興・生活応援の取り組みからスタートしました。孤立化の進む社会で、地域の人々のつながり、たすけあいのしくみを組合員とともにもう一度強めていきたいと考えています。

この地域の中で、協同したすけあい、地域福祉の取り組みを連続したものとし、協同組合の価値を示していくことができるよう、皆様とともに歩みをすすめたいと思います。



生活協同組合
コープ自然派兵庫
専務理事

前田 陽一

次の世代につながる仕組みづくりをすすめます

新年あけましておめでとうございます。昨年の通常総代会にて専務理事に就任致しました。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

2015年度は、第2次中期計画の最終年度にあたります。この3年間で供給高、組合員数ともに150%と大きく伸長しました。地元豊岡の米粉を使用したパン工場の稼働、神戸市西区の産直米「なでしこ米」の開発、有機農産物やPB商品の拡充。組合員活動に於いても様々な活動が活発に行われるなど、生協としての基盤づくりが更に進みました。

コープ自然派は、前身の共同購入会から40年が経過し、安全な食べ物をつくり、それを支える仕組みを構築してきた世代から、次世代へと交替が進んでいます。こうした中、原発再稼働、TPP合意、安保法制の成立と、私たちの方針「日本の農業を守る」「脱原発」「反遺伝子組み換え」等を揺るがす政策が次々と崩壊的に進められています。私たちは、安全な食べ物を届け続けるため、次代を担う子どもたちの「いのち」「環境」「食」を脅かす問題に反対し、第3次中期計画では、これらの問題について対峙し、解決に向けて更に多くの組合員を迎え入れるとともに行動できる組織づくりを組合員と一緒に考えていきたいと思っています。



生活協同組合連合会
コープ自然派事業連合
理事長

小泉 佳久

今こそ日本の農業を守り、食の安全と平和を真剣に考える時です

新年あけましておめでとうございます。

2015年は私達の生活や生き方までもが大きく変化するのではと、予感しました。

安倍政権による集団的自衛権に絡む安全保障関連法案めぐり、全国で反対運動が大きく動きました。多くの生協から「安保法制反対」「強行採決の反対」等抗議が出されました。

一方、民主主義が問われる事件も多く発生しています。福島原発の重大事故以降10万人以上避難生活の問題、汚染水問題などが未解決のなか、8月に川内原発が再稼働、伊方原発の再稼働も最終段階です。

沖縄県においても多くの県民が反対しているにも拘らず、辺野古への米軍基地新設を問答無用に進めようとしています。

秘密裏に進めていたTPPの大筋合意もなされ、日本の農業の危機が具体的に近づいてきました。私たちは「日本の農業を守る」「遺伝子組み換え食品に反対」の立場でこれからもTPP反対の活動を進めていきます。

アベノミクスが息切れする中、事業的にはコープ自然派ばかりか全国の生協もここ数年見られないほど事業が進捗しています。特にこれまで赤字が言われてきた生協の店舗が今までになく伸びています。生協による地域での取り組みが評価された結果ではと考えています。

2016年組合員・役員員一九となって健康で平和な生活へ向け頑張っていきたいと思っています。よろしくお願致します。

市役所生協としての取組み



西宮市職員生活協同組合
事務局長

山西 元

新年あけましておめでとうございます。
当生協は、兵庫県下唯一の市役所生協として、組合員である西宮市職員への福利厚生のため、サービスの提供に努めています。

日本経済は緩やかな回復基調が続いているものの、消費税率引上げの影響等もあり、供給高や手数料の減少等、厳しい運営を強いられております。

そのような状況ではありますが、市役所生協という特色を活かし、西宮市や職員互助会との連携を強化した事業を継続して進めてまいりました。

市の観光キャラクター「みやたん」をプリントしたポロシャツやウィンドブレーカーの販売、市が職員を長期派遣している宮城県女川町で水揚げされた「生さんま」のあっせん、そして、毎年秋に開催している生協祭では、福引の景品に東北の名産品を活用しました。その他にも、市の若者に対する自立・就労支援事業に関し、生協売店を活用した就労体験にも協力させていただきました。

今年も、生協のノウハウを活かし、市の施策に関連する様々な事業に取り組みさせていただきます。西宮市の関係部局や互助会との連携をさらに深く、存在意義を高めていく努力を行ってまいりますので、ご指導とご支援を賜りますようお願いいたします。

組合員と共に



神戸大学生生活協同組合
専務理事

坂本 安弘

新年明けましておめでとうございます。

2015年度は生協にとって非常に厳しい年でありました。就職開始時期の変更による影響で、キャンパス滞留時間並びに滞留人口が非常に減少しました。2016年もこの状況は変わらず、さらにクォーター制度が導入され、いっそうの減少が懸念されます。また、2017年度には学部の統廃合が控えています。

神戸大学も国からの予算削減が続いており、非常に経営状況が厳しくなりつつあり、近い将来には院生・学生（つまりは組合員）に少なからず影響を与える可能性があります（授業料の値上げ等々）。

このように、大学生協の組合員を取り巻く環境は非常に早いスピードで変化しており、私たち生協もこれまで以上に組合員のニーズに応え、柔軟に対応しなければなりません。

今年1年、これまで以上に組合員に寄り添い、「生協が必要」ではなく、「生協はあって当たり前」と思ってもらえるように努力致します。

まだまだ力不足ではありますが、皆様のお力をお借りしながら頑張っておりますので、何卒宜しくお願い致します。

新年の抱負



関西学院大学生生活協同組合
専務理事 /
大手前大学生生活協同組合
専務理事

高橋 秀行

新年明けましておめでとうございます。

2015年度の兵協連総会で副会長理事に就任いたしました。生協の発展と協同組合間協同の推進に、微力ながら貢献したいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、学生の就職活動開始の時期が2017年卒業生からまた変更になるようです。賛否両論あるようですが、少なくとも学生にとっては学業との両立などにおいて混乱が起こるものと思われれます。そのような環境の変化にもしっかりと対応し組合員をサポートできる生協でありたいと思っております。

昨年は阪神・淡路大震災から20年の年であり、また、兵協連の東日本大震災被災地支援活動にも参加させていただき、改めて震災がもたらす物心両面への被害について考えさせられました。BCP研修にも参加させていただき、いざというとき生協の継続のために何をしなければいけないかを学びました。非常時にどれだけのことができるかが組織の実力だと思えます。今年はその考えを深めていくことを自分のテーマにしたいと思っております。

ご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

2016年を迎えるにあたり

神戸市外国語大学
消費生活協同組合
専務理事

衛藤 昭二

新年明けましておめでとうございます。今年も神戸市外国語大学生協をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

神戸市外国語大学生協は2016年に設立50周年を迎えます。同時に神戸市外国語大学が創立70周年を迎えるため、たくさんの記念行事が予定されています。6月には記念式典、11月には模擬国連の世界大会が初めて日本でしかも神戸で開催されることになり、そのうち1日は神戸市外国語大学で行われます。当日は世界中から約300名の方をお迎えする予定です。

常日頃より申し上げている大学生協にしかできない「大学や学生のサポーターの役割」として大学と一体となって取り組み、記念行事を成功させて参りたいと思います。

私どもも50年目の節目として、外大生協が今後益々発展して行くための年にしていきたいと考えています。皆様のご指導・ご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

2016年の抱負

甲南大学生協同組合
専務理事／
神戸薬科大学生協同組合
専務理事

内田 真紀子

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ致します。

甲南大学では、2019年に迎える学園100周年事業の一環として、生協が運営する食堂、購買の店舗がある学生会館の建て替えが始まり、1年半の仮設店舗での営業が始まりました。

2017年9月竣工予定のInfinity Commonsでは、生協店舗、学生部、キャリアセンター、クラブの部室、小体育館だけではなく、学生が集える多くのスペースを計画されています。

この4年間は毎年店舗の改装を行ってまいりましたが、その機会は私たちに、生協の存在意義を見直させてくれています。私たちの存在を必要としてくれている今の組合員に、しっかりと向き合って、期待に応えられているかどうか。このことは常に自己に問い続けなければいけません。

本年は事業の大部分を仮設店舗で運営することで、組合員の皆様にはご不便をおかけすることも出てまいります。ただ、生協としてこの年をチャンスと捉えて、止まるのではなく新たな活動を起こす1年だと考えています。新しい施設の運営に向けて改めて、私たちの組織に関してはもちろん、組合員から聞き、教わり、学び、実験的に新しい展開を進めること、また新施設に向けて蓄えることなど多くを学び直すことができます。

この間毎年の変化の中で学び、成長し、役割発揮をしてくれた180人以上のスタッフと共に、今年だからこそできることに組合員の力をお借りして、しっかりと取り組んで参りたいと思います。

ご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

鶴寿千歳

兵庫県立大学生協同組合
専務理事

藤井 貴浩

あけましておめでとうございます。本年も皆様にとつて良き年となるよう祈念いたします。

世の中は残念ながら混沌とした状態が続いています。そのような世の中で、組合員と真つ正面に向き合い、想いを共有し、組合員の生活を守るため、我々は何ができるのかと自問しながら進んでいかなければならないと考えています。

今春のタイトルは、なにやら呑気な風情も感じなくもないのですが、想いとしては、組合員と向き合うためには、わたしたちがまず存続し続けなければならぬと決意するものです。

大学生協という職域生協は、大多数の組合員である大学生は4年で入れ替わります。入れ替わるからこそ、協同組合の価値観を伝えなければならぬ、伝え続けるためには、千歳とは言いませんが、協同組合としてあり続けなければならぬわけですね。兵庫県下の大学生協では、近隣の大阪、和歌山地域と事業連合組織を結成し、連帯の力で事業を進めています。今秋、京都・滋賀・奈良地域及び北陸地域の各事業連合組織と合併し、新たな連帯組織を結成します。もちろん、組合員に満足頂けるようにより一層の事業の充実を計るものではありますが、何よりわれわれ大学生協が存続し続けるための一手を打ったとも言えます。

新たな局面を迎えるにあたり、より一層精進しなければならぬと引き締めるとともに、「大学になくはない生協」であり続ける光明が少し見えたのかと感じています。

今後とも、皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新年の抱負



神戸親和女子大学
生活協同組合
専務理事

今村 奈星

新年明けましておめでとうございます。本年も神戸親和女子大学生協をよろしくお願ひいたします。

昨年は、新入生数が若干減少し、全体的に厳しい年となりました。利用人数は微増しているものの、客単価が大幅に落ち、学生の寂しい懐具合が露になったように思います。

一方、大学では春に大学開学50周年記念事業の一環として、「ラーニングコモンズ・カフェ棟」が完成予定です。カフェには他業者が入ることとなっており、生協が設立して初めて競合が学内に出来ることになります。生協としては、業態として全く同じではないものの、多大な影響を受けることは明らかであり、ますます厳しい環境下に置かれることになりそうです。そのような中で、生協では電子マネーの導入が決まり、春から運用する予定です。購入金額に応じてポイント還元を行います。組合員の利用の促進と利便性の向上、組合員還元において大きな役割を發揮するものとして期待されます。

また、春休み中には食堂のホールの改装が控えており、新しい環境で新入生を迎えることになりました。ソフト・ハード面でも変化のある年になります。職員一同また気持ちを新たにしていきたいと思います。

今後とも指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

新年の抱負



園田学園女子大学
生活協同組合
専務理事

塩野 晴也

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

昨夏、大学生協阪神事業連合が毎年開催しているUSストアコンパリゾン研修に今回初めて参加してきました。アメリカで主に外食産業を中心に様々なチェーンストアの店舗見学等を行う研修です。

これまで過去の研修参加者レポートも読んでいたのですが、実際に参加して最も勉強になったのは、伸びているチェーンストアは「従業員教育に力を入れている」こと、中でも「創業の理念や企業のポリシーを従業員に徹底する」「お客様にもそれを伝えようとしている」ことでした。

いくつかヒアリングできる機会もあったのですが、共通して従業員教育、特に初期導入教育は時間をかけて実施していました。また利用する場面でも、メニューリストに創業のヒストリーを掲載していたり、創業時の写真を掲げたり、創業地をメニュー名にする事例もありました。

翻ってわが生協ではと振り返ってみると、特に従業員に生協の理念も含めて教育できているかは、正直心許ない状態です。改めて協同組合原則に立ち返り、生協の理念や目指すべきことはしっかりと全員で共有するよう、取り組んでいく所存です。

本年も皆様のご指導ご鞭撻賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

設立20周年に向けて



甲南女子大学生生活協同組合
専務理事

塩田 恵美

あけましておめでとうございます。旧年中は格別のご高配を賜り、誠にありがとうございました。

当生協は1996年8月8日に設立しましたので、今年で20周年を迎えます。設立時のご支援はもちろん、これまでの活動に皆様の多大なご支援とご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

2015年は、20周年に向けての準備の一年でもあり、新たなことに取り組むチャレンジの一年でもありました。「食」に関する消費の減少もある一方で、大学と協力し「朝食の取り組み」や「地産地消の取り組み」など、学生の食生活を支える活動を積極的に行いました。就職活動や語学研修の取り組みについても、大学との相互協力が進み、学生へのより良い支援へとつながっています。「節目」というのも大切ですが、今の学生組合員には今の大学生活があり、4年間で卒業していきます。20周年を目前にすることで、この「4年間の大学生活」について改めて感じ、考えることができました。今年も、もう一歩進む活動を目指して取り組んでいく所存です。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

新年を迎えるにあたって



神戸市立工業高等専門学校
生活協同組合
専務理事

中川 一穂

新年明けましておめでとうございます。
本年も神戸高専生協を何卒、宜しくお願い申し上げます。

早いもので、弊組合は今年で設立から9年目を迎えます。まだまだ発展途上ではございますが、この間、学校や組合員の理解と協力の下、店舗事業以外にも様々な事業にチャレンジして参りました。また学生委員会の活動も広がりを見せ、学生と生協を繋ぐ架け橋として、協同の輪を広める役割を担っております。こうした活動が実を結び、組合員の意識も「生協は物品を供給する組織」から「生協は自分達の生活をより良くする組織」に変化しているように感じます。それは、ひとことカードにも現れており、以前より活発に意見交流が行われるようになりました。時には厳しい意見を頂くこともありましたが、これらも大切な組合員の「声」として受け止め、できるだけ多くの要求実現に向け取り組んで参る所存です。

来年で設立から10年目の節目を迎えるにあたり、今年には健全な黒字経営はもちろんのこと、より組合員や学校に頼りにされる組織となるよう、事業以外の組織活動にも力を注ぎたいと考えております。今後ともご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

新年の抱負



生活協同組合連合会
大学生協阪神事業連合
専務理事

末松 泰信

新年あけましておめでとうございます。
昨年5月の総会をもって、専務理事に就任いたしました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

阪神事業連合は、2011年度より阪神・京都・北陸3事業連合による機能統合が始まり、事業連携による経営数値・事業レベルの向上をはかってまいりました。ほぼ4年が経過した今、その成果のもと、もう一段高い連帯構造を構築するために、今年9月を目前に、3事業連合の組織合併（新事業連合）を行う予定です。兵庫・大阪・和歌山・京都・奈良・滋賀、石川・福井・富山の9府県の会員生協の事業運営を支援し、より生産性の高い強固な事業基盤を構築し、組合員から支持される新しい事業連合づくりを目指してまいります。

広域事業連帯にはなりますが、兵庫県と阪神事業連合の「次世代の消費者教育・学習に関する協定」に基づく学生組合員への消費者教育支援をはじめ、地域に根差した活動こそ、生協運営が活性化する原点だと捉えていますので、今後も一層深めていく所存です。

会員生協への支援を通じて組合員への貢献を実現する事業連合となるよう、努めてまいりますので、引き続き、ご指導賜れば幸いです。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新しい年を迎えて



神戸医療生活協同組合
理事長

道上 哲也

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、神戸協同病院に緩和ケア病棟を開設しました。組合員と職員がともにすすめてきたとりくみが「カタチ」となりました。「緩和ケア」という神戸医療生協の新しい医療活動を組合員はじめ地域住民、職員と育んでいきたいと考えています。また、昨年は、戦後70年、阪神淡路大震災20年と節目の年であり、わたしたちが日ごろから大切にしている「いのちの平等」について、あらためて考える機会がたくさんありました。東日本大震災・原発事故への対応をはじめ、沖縄の米軍基地問題、安全保障関連法の成立など、日本の政治のあり方、これからの医療・介護、社会保障への施策などについて、組合員とともに学習をすすめるながら、地域でのとりくみも旺盛に展開し、今年には更に、地域のくらしや福祉の拠点として、頼りにされる存在となるよう努力します。

本年が組合員をはじめ皆様にとって充実し、吉事が重なる良い年であるよう祈願し、新年のご挨拶といたします。
今年もよろしく申し上げます。



尼崎医療生活協同組合
専務理事

福島 哲

せめぎ合いの年にもう一踏ん張り

戦争をする国へとひた走る政権と平和を希求する国民の声のかつてない広がり、ここには底知れぬ不安感とともに、大きな希望を見いだすこともできるように思います。

2016年、この二つの流れのせめぎ合いの年が明けました。私は敗戦後十年と経たない時期に生を受けた世代ですが、若い世代の皆さんがたのフレッシュで力強い動きに励まされながら、もう一踏ん張り、力を出す年にしていきたくと考えています。

一方、社会保障を巡っても超高齢化を迎えた中で、地域毎のニーズにふさわしい「ご当地医療・介護の提供体制」をいかに作り上げていくのか、そのことに医療生協が事業と運動を通じてどのように関わっていくのかが問われています。緊縮政策は決して社会を、そしてそこに暮らす人々を幸せにしないということは、人類の歴史を通じて繰り返し行われた「自然実験」が証明しています。

住み慣れたまちでだれもが安心して暮らし続けることができるような、地域包括ケアネットワーク実現に向けて、しっかりと踏み出す年にしたいと思います。

今年もよろしくお願ひします。



阪神医療生活協同組合
専務理事

蓮見 克也

生協らしい 地域包括ケアを目指して

新年明けましておめでとうございます。

昨年の7月30日付けで専務理事の拝命を授かりました蓮見と申します。若輩者ではございますが、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

さて、今年には診療報酬の改定があります。昨年は介護報酬の改定で苦戦しましたが、今年もまた試練の多い年となりそうです。

一方で生協には組合員という力強いパートナーがいます。地域を支える組合員と共に運営していく限り、社会がどのように変わっていくとも、生協は変わりません。変わるべき所は変わり、変わってはならない所は変えない。温故知新で歩んでいきたいと考えております。

本年も当生協への変わらぬご指導、ご鞭撻何卒よろしくお願ひ申し上げます。



宝塚医療生活協同組合
理事長

茅野 涼一

医療・介護の複合施設建設に挑戦

新春のお喜びを申し上げます。

多くの国民が反対する状況で、安倍政権は「安保法制（戦争法）」を強行しました。自衛隊が米軍の後方支援で戦闘に巻き込まれる可能性があります。日本の平和の危機が現実的になりつつあります。命を預かる医療組織として、憲法9条と立憲主義に反するこの法律は廃止すべきと署名活動に取り組んでいます。

当医療生協は、昨年六月の通常総代会で、兵庫県民医連から幹部移籍の支援を戴き、専務交代を行い新体制で、一層の前進を図るべく諸活動に邁進しております。

また、老朽化した診療所と介護事業所の建て替えの計画がまとまり、十一月十四日に開催した臨時総代会で正式に決定、今年十一月に竣工する予定で建設運動がスタートしています。この事業は、年商の五十％に相当する大きな事業で、地域組合員・役員員の「オール医療生協」で成功させようと地域一万戸訪問行動など全力を挙げて取り組んでいます。

地域の皆さんが「安心して住み続けられるまちづくり」に向けて努力し行政とも協働していきます。県生協連に結集する皆様のご多幸を祈願致します。

姫路医療生活協同組合
専務理事

黒岩 勝博

行政や他団体との連携強化と
地域包括ケア

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、通常総代会に初めて姫路市長にご臨席いただきましたとともに、姫路市と「地域見守りネットワーク」協定の締結、「姫路市協議体」への参画、「健康チャレンジ2015」(当生協の健康づくりの企画)で当生協の支部のあるすべての自治体(3市1町)から後援をいただくなど、行政との顔の見える関係づくりが大きく前進いたしました。

また、事業活動では、4月に姫路市内で初めての定期巡回・随時対応サービス事業所を福祉介護センター1ひがし内に開設し、在宅サービスの限界を高め、地域包括ケア時代にふさわしい事業展開が前進いたしました。

今年は、4月に法人内43番目の事業所である定期巡回・随時対応サービス事業所を福祉介護センター別所内に開設するとともに、さらなる地域密着型サービス等の事業展開に挑戦いたします。今年4月の診療報酬改定や今後の「新しい総合事業」の動向を踏まえ、行政や他団体との顔の見える関係づくりを強化し、誰もが、その人らしく、気持ちよく生きることができる地域包括ケアシステムの構築に貢献することを決意しております。

ろっこう医療生活協同組合
専務理事

森本 浩

「ろっこプラン」で
地域まるごと健康づくり

新年明けましておめでとうございます。

昨年、当生協は創立35年を迎え、第6次5か年計画「ろっこプラン」を決定・スタートさせました。だれでも気軽に立ち寄れる居場所を地域に増やし、「歩くこと」、「食」、「子育て・子育て支援」にこだわった健康づくりに取り組んでいきたいと考えております。また合わせて、2017(平成29)年度から始まる新しい総合事業に積極的に対応していきたいと考えております。

ところで、今年は、東日本大震災から5年となります。この間、私たちは、縁あって、岩手県大船渡市で被災者の皆さんに寄り添う活動に取り組んでまいりました。いまだに仮設住宅で不自由な暮らしが続いておられる方々や、災害復興公営住宅などに引っ越しをして新しい暮らしを始めた方々を訪問し、健康チェックなどを通して、今年も交流を重ねていきたいと考えております。

たじま医療生活協同組合
専務理事

和田 茂孔

あたたかなたすけあい
すこやかに人間らしく生きる

新年明けましておめでとうございます。

私どもの生協は昨年創立20周年、今年には診療所開設20周年・介護事業所開設10周年を迎えます。私たちはこれから2025年の10年後に向けて何をすべきかを2年間かけて検討し、今後の指針となる総合計画を作りました。

今年、診療所・介護事業所の新たな施設整備や新規事業の建設にむけた事業の実施計画を具体化する年でもあります。

また、現在診療所内で来院患者の方への「送迎ボランティア」や子連れの若いお母さんへの「抱っこボランテア」を行っていますが、さらに地域の中で助け合い有償ボランテアの会「なんなつ」との設立に向けて準備を進めてきました。今年さらには人と人とのつながりと助け合いの輪を広げていきます。

私たちの住む但馬地域では全国に先駆けて高齢化と過疎化が急速に進んでいます。今まさに、このような状況の中で住民本位の地域包括ケアが求められるています。「あたたかなたすけあいですこやかに人間らしく生きる」のスローガンのもと、人々がこの住み慣れた地域で安心して住み続けられるよう医療と介護の連携を強めてそのお手伝いをしていきたいと思えます。

人を大切にし信頼して 助け合う社会を実現しよう



ひまわり医療生活協同組合
副理事長

三橋 徹

新年を迎え、各生協の皆さんの日頃の活動にあらためて敬意を表します。

昨年は、ISによる後藤健二さんから殺害、安保関連法案の可決、川内原発の再稼働、原発輸出の動きなど今後につながる大きな問題が明らかになりました。手術をして甲状腺がんだった1003名のフクシマの子供たちは、どう感じているのでしょうか。

このような厳しい状況の中でも、感心することもありました。昨年、尼崎でも開かれた「みんなの学校」という映画の上映会に私たちも協賛しました。大阪市住吉区の公立小学校「大空小学校」の2012年度を追ったドキュメンタリー映画です。

地域住民や学生ボランティア、保護者そして子供たち自身がつくる学校、不登校ゼロ、特別支援学級なく同じ場で学び合う。校則はないが「自分がされていやなことは人にしない。言わない。」という「たった一つの約束」がある。ジャッジをするのでなく「どうなん？」と聞いていくことで子供自らが気づき直していく。

大人もこんな世界が作れたら、人を損なう軍事力や経済力の競争でなく、人を大切にし信頼して助け合う社会が実現するのではないのでしょうか。

本年もあきらめず平和な社会の実現に取り組みます。よろしくお願いたします。

新年に思う



神戸市民生活協同組合
専務理事

嶋 秀穂

新春のお慶びを申しあげます。

昨年は、当組合創立60周年を迎えることができました。これもひとえに組合員の皆さま、関係各位の皆さまのご理解とご協力の賜物と心から感謝申しあげます。

さて、日本は高齢化社会と言われて久しいですが、最近では超高齢化といった言葉も使われています。

内閣府の平成27年版高齢社会白書によれば、日本の総人口は平成26年10月1日現在、1億2,708万人(前年1億2,730万人、22万人の減少)でその内、65歳以上の高齢者人口は過去最高の3,300万人(前年3,190万人、110万人の増加)となり、総人口に占める65歳以上人口の割合(高齢化率)は26%(前年25.1%)であるということです。

また、総人口が減少するなかで、高齢化率は上昇傾向にあり、このままだと、平成72(2060)年には高齢化率は39.9%に達し、2.5人に1人が65歳以上になるという推計値を出しています。75歳以上人口で見ますと、26.9%となり4人に1人が75歳以上になるといえます。

高齢化の課題は、就業、年金、介護、医療などがあげられます。国等もその対策を講ずろうとしています。解決はかなり難しいと思われまします。もちろん、高齢となっても健康で活躍できることができればよいのですが、いわゆる健康寿命を今後どう伸ばしていくかが個々人の問題としても重要となってきます。

そのような中、共済組合といたしましても高齢社会に対応した制度等をさらに検討しなければならぬと考えています。組合員の皆さまのご意見、ご要望をお聞きしながら、医療共済制度などにおいて、できる限り皆さまのお力になれるよう努力してまいります。

本年も「支え合い、助け合い」の理念のもと、皆さまと共に歩んでまいりたいと存じますので、今後ともどうぞよろしくお願いたします。

尼崎市市制100周年とともに



尼崎市民共済生活協同組合
常務理事

本田 良生

新年明けましておめでとうございます。

大正5年に尼崎市が誕生して100周年を迎えます。兵庫県下では、神戸市、姫路市について3番目です。これまでの100年を振り返るとともに、尼崎の魅力再発見し、誇りを持って新たな一歩を未来に生かし、次世代を担う子供たちに繋げていくことを願っております。

これまで何度か周囲の村を合併して、現在の尼崎市になったわけですが、尼崎で生まれ育った私としては、やはり愛着があります。現在地域活動として、「富松むぎわら音頭研究会」を立ち上げ、昔富松の地域で踊られていたむぎわら音頭がどのような踊り方であったかを調べております。この活動を通して地域と顔の見える関係になりつつあることが活動の大きな原動力となっております。このことは、わが市民共済の特性である「地域密着型」に通ずるところがあると思っております。市制100周年を機に、組合員の相互扶助という共済制度の重要性をより一層アピールし、共助、協同の輪を更に広げ、その役割を十分に果たせるよう取り組んでまいります。

本年も地域並びに組合員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

五年間を振り返って



姫路市民共済生活協同組合
理事長

藤田 雄三

謹んで新春のお喜びを申し上げます。私事ですが、公務員生活を経て、生協に携わって五年が経過し、改めて振り返ってみました。当初は、生協という名前だけで、助け合い事業という事を、深く知りませんでした。食・健康・購買・医療、また、災害対応や支援・平和活動への取り組み等々、幅広い分野での、生活に密着した事業活動に、その存在の重要性を強く感じました。

現在社会は、少子化や高齢化の進展に伴い、生活環境も大きく変化し、私の住む地域でも、それは顕著に現れており、一昔前までは子供も多く、活動も活発でしたが、今では数えるほどで、これが更に進展すると、将来小学校の統廃合の可能性も、身近に感じるようになりました。また、結婚をしない若者も多く、近い将来、更なる少子化の進展も、懸念されることです。一方、老人の人数は増加し、元気で活発なのは、老人会かなとも感じています。

健康で、元気で長生きというのは、本当に嬉しいことですが、今後、老老生活や老人の一人暮らしの増加の可能性も、多分に考えられますし、頼りの年金も不安定な一面もあり、少なからず、経済面・健康面・災害への備えや、食や住に対して、将来への不安を覚える方も、少なくないのでは無いでしょうか。このような社会状況の中、営利を求めない、助け合い事業の必要性が、より強く求められる時であると、強く感じた五年でありました。

姫路市民共済は、今年も、助け合いの精神を大切に、して事業推進してまいりますので、ご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

商売繁盛、笹もってこい



西宮市民共済生活協同組合
常務理事

岸本 正

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

先日、全共連の理事会が長野市で開催され善行寺に立ち寄った際、すぐ近くで「西宮神社えびす講祭」が行われており長野で西宮？と興味を持って参詣しました。露店の人ごみも多く神官に問えば、えびす宮総本社の我が西宮神社の支社との事で、長野では「およべっさん」と親しまれており「えべっさん」繋がりて話が盛り上がりました。

総本社独特の行事として十日えびすの宵宮祭での開門神事（福男選び）が有名ですが私も過去に家族で朝の三時頃からこの「走り参り」を見る為に出かけていました。激走する集団の数は僅かで、その後を脱げた靴が転がっている参道をぞろぞろと歩いて行き、一番福が決まり熱気に包まれた本殿で共に騒ぎ、鏡開きの振り舞い酒を待つのが楽しみでした。また、四時頃に各企業からの寄贈の品が福袋として配られるのも子供達の楽しみの一つでした。

この福男選びも走路妨害が起こり福男参加者、福袋ともくじ引きとなり楽しみが減りましたが露店の賑わいは変わらず年明けの行事として定着しています。

消防職時代は「商売繁盛」はなんだかなあと思っておりますが現在在は真剣に「商売繁盛」を祈念しております。皆様にもお裾分けがありますように。

まさかの時の備えを！



兵庫労働共済生活協同組合
理事長

酒井 行雄

新年あけましておめでとうございます。皆様方にはご家族を含めて新たな年を穏やかに迎えられると拝察します。

さて、昨年も多く自然災害が発災しました。7月の台風15号は九州地方を中心に大きな被害が出ましたし、台風18号の影響から発生した低気圧は聞きなれない「線上降水帯」となって鬼怒川沿いに停滞し、越水・堤防決壊によって思わぬ大災害となりました。また火山活動の活発化や竜巻による被害など・・・自然災害の頻度や被害状況は年々拡大する傾向にあると考えています。

一方、兵庫県の自然災害の付帯率は、残念ながら全国平均よりかなり低い結果となっております。

兵庫労働共済・全労働兵庫本部はここ数年「まさかの時の備えを行なってもらい不幸な組合員を一人も出さない」を合言葉にするとともに「願わくば全労働の住まいる共済に入ってもらいたいのですが、一般の損害保険会社の商品や他の共済でも良いので必ずまさかの時の備えを行なって下さい」とのメッセージを発信し各種の活動に取り組んできました。

このメッセージや活動は一過性のもではありません。共済生活協同組合の社会的責任として、これからも色んな取り組みを推進して行きたいと考えていますので、引き続きの皆様方のご理解ご協力をお願い申し上げます。

生協の仲間の皆さんとともに



近畿労働金庫
兵庫地区統括本部
本部長

本多 義弘

明けましておめでとうございます。皆さま方には健康やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

経済報告では「国内景気は緩やかな回復基調」とされ、企業収益や所得環境は上向いているとあるものの、消費関連指数は横ばいが続いており、生活者が豊かさを実感するには至らないまま新年を迎えました。本年も福祉金融機関（ろうきん）の役割をしっかりと果たすべく、お客様のご希望にかなった労働商品や可処分所得を増やすための情報など、丁寧なご相談活動を展開してまいります。

昨年は折しも戦後70年、阪神淡路大震災から20年にあたり、各団体が様々な事業に取り組みました。大きな犠牲や尊い命を馳せると同時に、戦争や災害から逞しく復興を遂げた人々の力や想いを次の世代に繋いでいく活動であります。それは取りも直さず、生活協同組合・福祉事業団体等が「助け合い」を基軸に、それぞれの理念を掲げ、根付かせてきた活動の歴史と重なりあうものです。当庫もこの節目に、福祉金融機関としての役割に確信を持ち、第6次中期経営計画（2015～2017年度）に掲げる「労働運動の再構築」を推し進める所存です。

本年も各生協の皆さんと対話の機会を持ち、互いの事業を生かして連携できる施策を模索したいと考えております。そして、「生協の仲間」として当庫の事業や預金・融資商品をお知らせする活動に取り組んでまいります。

本年も引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

2015年度 ひょうご消費者セミナー

転ばぬ先の消費者団体！ ～被害を防ぐみんなの味方～

8回目の開催となる、『2015年度 ひょうご消費者セミナー』では、弁護士の角田龍平（すみだりゅうへい）さんをお迎えして、法律家の立場から消費者トラブルの解決法を、わかりやすく、楽しく実例を交えながらお話いただきます。また、適格消費者団体のこれまでに取り組んだ事例をコントで解説します。

◆と き：2016年3月7日(月)

午後1時～3時30分

◆ところ：兵庫県民会館11F パルテホール

神戸市中央区下山手通4-16-3
(JR：阪神 元町駅より徒歩10分、地下鉄県庁前すぐ)

◆内 容：〈コントでわかる差し止め事例〉

- アド☆コン座
- NPO 法人 消費者支援機構関西 (KC's)
- NPO 法人 ひょうご消費者ネット

〈講演〉

「実例で学ぶおもしろ法律講座

～消費者トラブルの手口と対策～

弁護士 角田 龍平氏

1976年生まれ。京都府宇治市出身。大阪弁護士会所属。「角田龍平の法律事務所」所長。高校3年で、オール巨人に弟子入りし、若手漫才師の登竜門「今宮戎新人コンクール」で福笑い大賞受賞。漫才の一芸入試で立命館大学法学部に入学者、進路を漫才師から弁護士に変更し、司法試験に合格。弁護士として、刑事事件、民事事件を数多く担当。「サンデージャポン」(TBS)、「かんさい情報ネット ten.」(読売テレビ)等メディアにも精力的に出演。

◆参加費：無料 (定員150人。*兵庫県生協連は20人募集します。お早目にお申し込みください)

◆託児あり：無料 (1歳半～未就学児) ※保育をご希望の場合は、お申込み時にご連絡ください。

◆申し込み方法：会員生協・団体名、お名前、電話番号をご記入の上、兵庫県生協連まで FAX・電話でお申し込みください。

(FAX：078-392-2059 電話：078-391-8634)

◆締め切り：2月19日(金) *定員になり次第締め切ります。

◆主催：生活協同組合コープこうべ、消費者支援機構関西、ひょうご消費者ネット、兵庫県生活協同組合連合会

◆後援：兵庫県・神戸市 (予定)



実践BCPで想定外を想定内に

～日本生協連・兵庫県生協連 共催

「大規模災害対策・事業継続（BCP）マニュアル策定研修会」を開催～



事業継続セミナーでBCPの本質を学ぶ

12月8日(火)・9日(水)、兵庫県農業共済会館において、中小企業庁の補助による日本生協連・兵庫県生協連共催「大規模災害対策・事業継続（BCP）マニュアル策定研修会」を開催。日本生協連法務・危機管理室と株式会社 富士通総研の協力のもと、生協グループにおける事業継続（BCP）策定、平時の備えや非常時の優先事業の継続方針、危機管理意識を深めることなどを目的に研修を行い、兵協連の19会員生協、関連会社、兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）よりJAの皆様をはじめとする11団体、合わせて64名の方々にご参加いただきました。

定しての模擬訓練。前方スクリーンに「震度7」を伝える模擬地震ニュースの情報が流れるなか、グループごとに初期対応に追われる状況を体感し、情報の整理や判断のスピードなどのスキルを習得しました。その後、グループディスカッションを経て行われたグループ発表の気づきをもとに、自組織の課題を洗い出す個人のワークへと発展しました。2日目はBCP策定のすすめ方や災害時の対応方針の検討、非常時体制の検討など、随時、グループでの話し合いを行い、迅速な初動対応、また、危機的状況にも俊敏に対応できる「人材（材）育成」の必要性を学びました。



兵庫県企画県民部消費生活課
梶本修子 課長



発災の瞬間に
机の下に伏せる
模擬訓練



グループ発表で対策の情報を共有



グループディスカッションを繰り返しながら対応を模索する

2015年度 兵庫県生協連 第4回理事会報告

【開催日時】 2015年12月7日(月) 午後2時～3時52分

【開催会場】 兵庫県民会館 12階「1201」

【出席者】 本田会長理事、高橋副会長理事、野間専務理事、板崎、福島、新保伴、大沼、嶋、本多、藤井（以上、理事）、藤田、金丸、山添（以上、監事）

協議事項 (1) 2016年度「兵庫県企画県民部と兵協連理事会との懇談会」の開催時期について

報告事項 (1) 2015年度上期監事監査実施報告
(2) 2016年「新春トップセミナー・賀詞交換会」について
(3) 労働者福祉中央協議会「給付型奨学金制度導入・拡充と教育負担の軽減を求める署名」への協力について
(4) 分野別生協からの活動報告について
(5) 前回理事会～12月上旬までの兵協連行事・活動報告について
(6) 2015年度～2016年度8月までの「主要行事スケジュール」について
(7) 「瀬戸内おさかな丼 学食でどうぞ」の神戸新聞記事について

“共に働き、共に捧げる”協同組合の本質を学ぶ

兵庫JCC 第2回「虹の仲間づくりセミナー」 協同組合の仲間をつなぐ

2012年の国際協同組合年を契機とし、県下の生協・JA・JF・森林組合の4つの協同組合から構成される兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）を中心に、次世代を担う職員同士が顔の見える関係をつくり、くらし、地域、社会のなかで果たすべき役割について、ともに考えるための第2回セミナー（全3回）が、11月28日(土)、29日(日)に開催されました。

1日目は、グリーンピア三木（三木市）で開催された「虹の仲間で作る森づくり」に36人のセミナー生が参加。4団体の組合員や役職員など、あわせて約200人が森の除伐作業を行いました。兵庫県の漁業者は、「豊かな森は豊かな海をつくれます」を合言葉に県下で漁業者の



除伐作業にも慣れてきました



総勢200人で森づくり活動

森づくり活動を展開しています。当日は、NPO法人ひょうご森の倶楽部の方々のご指導により、のこぎりを使って約2時間の除伐作業を行ない、森や海への関心を深めました。また、2日目は生活協同組合コープこうべ協同学苑にて開催された「ひょうごの食文化フェスタ～食から考える一次産業の今とこれから～」に参加。セミナー生は、各チームごとに地元生産品の中から商品を選びプレゼンテーションを行い、来場者におすすめしました。消費者ニーズを探り、協同組合と地元生産者、地元企業との連携で生まれる地産地消の商品の「良さ」「らしさ」について、改めて考える機会となりました。

セミナー生は、「同じ協同組合の職員として、連帯感が持てた」「今後の協同組合同士の連携を強めていきたい」など、次回に向けての“つながり”を感じるセミナーとなりました。



フェスタで地元生産品をおすすめ



グループ討議の発表から新たな気づきも

【兵庫県協同組合連絡協議会（=兵庫JCC）】

CO-OP（生協）、JA（農協）、JF（漁連）、Jforest（森林組合）など、兵庫県内の協同組合運動相互の連携、そして全国、海外の協同組合運動との連携をはかることを目的に1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らしよい兵庫をめざして～協同が息づくまちづくり～」を基本理念に活動しています。

宝塚医療生活協同組合

健康チェックに大行列！

みんなで健康くひろげよう絆そして感動く

今年は何年より少し遅い11月開催となりました。天候はもろろんのこと、寒さも懸念していましたが当日は見事な快晴！ポカポカとあたたかい、まつり日和でした。

宝塚医療生協のゆるキャラ「虹っ子」の衣装をノリノリで着た茅野理事長が開会のあいさつをした後、全員でおこなう健康体操では、毎年恒例で動きも覚えていた方もチラホラいました。その後は、子どもコーナーでお菓子ひろいや靴飛ばし、輪投げといったゲームの始まりです。小学生から歩きはじめたばかりの子どもまで、友達と競い合ったり、お父さんお母さんに手伝ってもらったりしながら思い思いに楽しんでいました。



健康チェックも大盛況



可愛らしいダンスにみんな笑顔

また今年は何年より少し遅い11月開催でした。始まるとすぐにたくさんの方が集まり、「無料でできるなんて減多とない機会だから！」と言って列に並ぶ方や、子どもの身長を測ってもらおう方など、たくさんの方が集まりました。終了後の反省では、「次回はおもっとスペースを広げないといけないね」と嬉しい声もありました。午後からのステージでは、毎年レアルアップしている末成小学ブラスバンド部の演奏にみんなが手拍子をしたり、ヒューマンノートのゴスペルには、歌声の力強さとハーモニーにうっとり。続くTAKARAZUKAチアダンスの可愛らしいダンスを見て笑顔になり、最後のマエストロ足立さんの手作り楽器演奏は、廃材を使った珍しい楽器に感心したり、ユーモアがあるトークではみんなが笑い盛り上がりしました。これからも健康まつりを通して、たくさんの方に笑顔と健康を届けられればと思います。

(通信員 前田 秀輔)

近畿労働金庫兵庫地区統括本部

「助成金申請&活用のコツ」セミナーを開催しました

くNPO・ボランティア活動を応援しますく

11月11日、兵庫県民会館バルテホールにて、「助成金申請&活動のコツ」セミナーを開催しました。(主催：公益財団法人コープともしびボランティア振興財団・近畿労働金庫) 「助成金の活用」は団体や組織の成長を後押しするもの。しかし「情報の探し方がわからない」「申請書を書くのが難しい」といった悩みを抱える団体も多くあります。今回もボランティア団体やNPOを中心に約100名の方が参加され、このテーマへの関心の高さが感じられました。

【第一部】は、河合将生氏 (Office musubime) 代表) の講演で、講義と参加者のグループトークを織り交ぜながら、助成金の基礎知識、活用方法、申請書の書き方のコツなどを学んでいただきました。グループ内でそれぞれの活動・想いを熱く語る中で、今後に繋がる交流の場にもなりました。【第二部】では、コープともしびボランティア振興財団の「ボランティア活動助成」、近畿ろう

さんの「近畿ろうきんNPOアワード」をそれぞれ紹介し、活用を呼びかけました。

終了後も参加者の名刺交換や議論が続き、今回の学び・交流を通して課題解決のヒントも生まれた様子です。今後も協同組合間協同(生協・労金)の力を、社会的意義のある活動の応援に活かします。

(通信員 井奥 眞貴子)



講演いただいた河合氏「NPOの家庭教師をやっています」



近畿ろうきん 浦田地域共生推進室長



コープともしびボランティア 振興財団 吉村事務局長

～食をテーマに消費者心理を学ぶ～ 「生活問題研究会」研修を開催

11月25日（水）、今年度の兵協連「生活問題研究会」の食のテーマに沿い、大阪府連「生協大会」（大阪・ドーンセンター）の基調講演に、「生活問題研究会」メンバー、事務局あわせて6名が参加しました。食に関する情報が氾濫するなか、情報を適切に読み解くことの大切さについて学習後、大阪府連の会員生協による「食育」「食と健康」「学生の食をよりよく」をテーマにした取り組み報告や、活動展示、交流も行われました。

基調講演は、「メディアに惑わされない食生活～食情報とフードファディズム～」と題して群馬大学名誉教授 高橋久仁子氏が講演。「『がまんしないで・好き放題に・飲んでも食べても・太らない』という方法や健康食品はない。“適度に動く・寝る・食べる”が健康管理の基本。ラクをして健康を得たい心理につけ込むビジネスは巧妙さを増している」と話されました。研究会メンバーからは、「消費者にとって商品の選択は大切。生協は、少しでも多くの組合員、消費者に正しい情報とその選択方法を発信していくことが必要だと感じました」などの感想が寄せられました。

※フードファディズム（food faddism）とは、食べものや栄養が健康や病気に与える影響を熱狂的、あるいは過大に信じ評価すること。



大量の情報の中から商品を選択する力を



活動展示コーナーで試食や交流

第14回「税務・経理講習会」のご案内

税務経理の諸問題等についての合同の講習会とクラス別の講習で、生協の税務と経理の実務について学びます。

日時：2/23日（火）・2/24日（水） 9時30分～18時

会場：兵庫県民会館 受講料：会員生協：無料/関連子会社：お一人 5,000円 *ただし、昼食代・テキスト代は実費を徴収します。

講師：江藤 俊哉氏（税理士）、三宅 充氏（MMコンサルティング代表）、宮田 正樹氏（西宮市職員生活協同組合 統括部長）

クラス別講習内容：(1) 初級クラス（定員20名） *定員になり次第、締め切ります

・内容：①税務・経理・財務管理の基本 ②簡単な設例に基づく税務申告書の書き方

(2) 中級・上級・関連子会社（株式会社）クラス（定員20名） *定員になり次第、締め切ります

・内容：①設例に基づく税務申告書の作成（演習含む） ②上級者用設例による解説

参加申し込み・お問い合わせ：兵庫県生協連 TEL. 078-391-8634

住まいの備え 大丈夫？

◆迫る 南海トラフ地震

30年以内の発生確率70%

県内の住宅被害 全半壊21.5万棟

阪神・淡路大震災に耐えた家、

実は危ない!?

◆頻発する水害・土砂災害！

平成16年からの11年間で2万棟！



年5,000円で最大600万円

あらゆる自然災害の“もしも”に備えます

フェニックス共済



兵庫県住宅再建共済制度

公益財団法人
兵庫県住宅再建共済基金
(コールセンター)
☎078-362-9400
(平日 9:00～17:00)

制度創設10周年



フェニックス共済

検索

JF

(一社) 淡路水交会

南あわじ市で 「漁業者による森づくり」 ～バベなど 600 本を植樹～

一般社団法人 淡路水交会（東根 壽会長：JF 淡路島岩屋）は、毎年この時期に、漁業者による森づくり活動として、関係機関の後援と協力を得て、バベなどの植樹を行っています。アオリイカを増やすためバベ（ウバメガシ）の枝を使った柴漬けによる産卵床造成事業を進めつつ、必要なバベ等を育てる森づくりを、漁業者と一般県民が力をあわせて行い、環境保全と地域への貢献を図るもので、当会としては平成21年度から継続して行っています。

今年は11月10日(火)、南あわじ市の本庄川ダム近くの約2,500平方メートルに、バベとヤマモモの苗木各300本を植樹しました。JF、行政、系統団体のほか、南あわじ市立阿万小学校4年生の児童ら約35人も併せた約140名が参加し、東根会長は挨拶で「この活動をとおして森の大切さを知ってもらえたら」と、参加者にさらなる理解を求められました。

造園業者から植樹方法の説明を受けた後、約1時間かけて、一本一本丁寧に植えられました。また、児童らには県洲本農林水産振興事務所水産課田中 洋課長補佐から兵庫の魚や漁業、森と海の関係について説明があり、理解を深めることが出来たようです。



一本ずつ丁寧に植えられました



豊かな海を目指して多くの人が作業をしました

JA

JA 兵庫南

近畿最大級の直売所 「にじいろふあ～みん」がオープン

近畿で最大級の農産物直売所となる JA 兵庫南の6次産業化拠点施設「にじいろふあ～みん」が11月19日(休)グランドオープンしました。所在地は加古郡稲美町六分一。第二神明道路の明石西インターチェンジから北東約1.7km、天満大池の埋め立て地にあります。約1万㎡の敷地に平屋の農産物直売所（売場面積966㎡）。約500人の生産者が出荷し、地元の畜産農家や漁協から仕入れる精肉・鮮魚コーナーや豆腐工房、地酒・特産品コーナー、ジェラートや惣菜などの工房を構えます。

ドライフーズ工房や料理教室などを開くキッチンスタジオが入る研修棟（床面積726㎡）もあり、子どもや若者、男性など幅広い世代を対象とした企画を予定しています。直売所南側の隣接地約1万2千㎡には、農業体験ができる貸農園や研修農地を今年4月に開設する予定です。

青木良子所長は「にじいろの名前の通り、色とりどりの農産物が並び、たくさんの笑顔が集うお店を目指します。地元農産物の魅力をより広いエリアの皆様を知っていただきたいです」と話しました。



オープンセレモニーでのくす玉割り



最近の消費生活相談事例

住宅リフォーム工事訪問販売のトラブルに注意

事例

一昨日、「隣の家の屋根工事をしている。屋根を無料点検してあげる」と事業者が訪問してきました。点検後、「瓦がずれている。補修しないと雨漏りする」と言われて屋根補修工事の契約をしました。次の日、隣の人に確かめると工事などしていませんでした。不審に思うので解約できますか。

【アドバイス】

築年数の経過した住宅をターゲットとして、不要不急な住宅リフォーム工事の訪問販売を行う事案が多く発生しています。

訪問販売の場合、契約書面を受け取った日を含めて8日間はクーリング・オフが認められています。事例は、訪問販売で契約し、しかも契約書を受け取った日から8日以内であったことから、クーリング・オフ通知を書面で出すよう手続方法を助言しました。

突然自宅を訪問した事業者が、屋根瓦等の補修工事を安価な金額で行うと勧誘するようなときは、後から別の高額な工事を勧められることがあります。今回の事例のように、安心感を与えるため「近所で工事をやっていて気付いた」などとうそを言って偶然を装って訪問してくることもあります。また、「このまま放置していると大変なことになる」などと不安をあおり、数百万円にも及ぶ高額な屋根全体の修理工事を勧めることがあります。トラブルに遭わないためには、その場で契約せず身近な人や公的な相談窓口相談し、工事が必要な場合でも、なるべく複数の事業者から見積もりを取るようによみましょう。

困ったときは、お近くの消費生活相談窓口にご相談ください。（兵庫県生活科学総合センター）

適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネット

ヨッシーの窓



兵協連だよりをご覧のみなさま、こんにちは。適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネットの吉江です。

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。今年は、今まで約8年間使っていた手帳から、新しいタイプの手帳に変えました。これで、気持ちも新たに！と思っています。

さて、昨年10月31日(土)のことです。豊岡でシンポジウム「ストップ！ ザ 泣き寝入り～訪問押し売りで、不要なものを買わされた！」を開催しました。ご来場いただいたみなさま、ありがとうございました。豊岡の地での開催は、今回が初めてとなりました。シンポは、基調講演で弁護士国府泰道先生による「不招請勧誘規制」についてのお話を、それから、ひょうご消費者ネットの特色の1つとなりつつある〇×クイズ、そして、最後に理事長山崎省吾先生のミニ講演とバラエティに富んだ内容となりました。今回のシンポで改めて感じたことは、その地域のみなさまとの顔の見える関係を築くことの大切さでした。兵庫県内、まだまだ行けていない地域があります。これからの活動の課題の1つです。

(ひょうご消費者ネット 理事 司法書士 吉江直記)



連絡先

〒650-0011 神戸市中央区下山手通五丁目7番11号兵庫県母子会館2階C
TEL: 078-361-7201 E-mail: office@hyogo-c-net.com

MOVE

平成27年度 NPO 法人 ひょうご消費者ネット シンポジウム

ストップ! ザ 泣き寝入り Vol. 3

参加
無料

～訪問押し売りで、不要なものを買わされた!!～

●日時：**平成28年1月16日(土)**

13時00分～16時00分

●会場：**姫路商工会議所 501ホール**

〒670-8505 姫路市下寺町43番地

電話 079-222-6001

●内容：★**基調講演**

講師 **村 千鶴子氏** (弁護士)

東京経済大学現代法学部教授、
日本消費者法学会理事

★**〇×クイズで学ぼう**

★**ミニ講演**

講師 **友久 康弘氏** (弁護士)

適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネット
検討委員

講師 **山崎 省吾氏** (弁護士)

適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネット
理事長

●参加費：**無料** (定員180名)

●申込方法：ひょうご消費者ネット事務局までメールまたは電話・FAXでお申し込みください。

電話：078 (361) 7201 FAX：078 (361) 7205

E-mail：office@hyogo-c-net.com 事務所開所時間：月～金 午後1時～5時

●主催：適格消費者団体 NPO 法人 ひょうご消費者ネット

●後援：兵庫県、姫路市、兵庫県弁護士会、兵庫県司法書士会、生活協同組合コープこうべ、
兵庫県生活協同組合連合会



▲アクセス

- 神姫バス：●日出町行乗車…商工会議所前下車
●鹿島神社行、夕陽ヶ丘行、別所駅行乗車…坂田町下車
- 徒歩：所要時間 20分程度



県連日誌

- 1月9日(土) 新春トップセミナー (県民会館 福)
- 1月14日(木) 賀詞交換会 (県民会館 鶴)
- 1月19日(火) 第11回初級経理学校 (県民会館 10001、9001)
- 1月18日(月) 兵協連監事と代表理事懇談会 (県民会館 ぼたん)
- 1月22日(金) 兵協連第3回大学生協部会 (大学生協部会)
- 1月27日(水) 兵協連第5回生協活動委員会 (県民会館 ぼら)
- 1月29日(金) 兵庫JCC 虹の仲間づくりセミナー (三木市)

編集後記

「生活問題研究会」のみなさまと、大阪府連生協大会「食の基調講演」に参加(P17参照)。「がまんしないで、好き放題に、飲んでも食べても、太らない：そんなものは、ありません！」と講師に力強く宣言されると、「やっぱり：ね」と納得。でも、新しい情報が出ると、「ひよっとして」と思ってしまう消費者を誘惑する情報の氾濫。健康効果をかたる商品のキャッチコピーや心理につけ込む巧みなワナにはまってしまうことなく選別できる力を身につけることが大切です。さて、お正月に、飲んで食べて、雪だるまに近いフォルムになった体型をどう復元するか?…大好きなおモチを焼きながら考えたいと思います。☆2016年も、みなさまにとって良い年でありますように…。

今年も、兵協連と「兵協連だより」を、どうぞよろしく願っています。(中尾)